

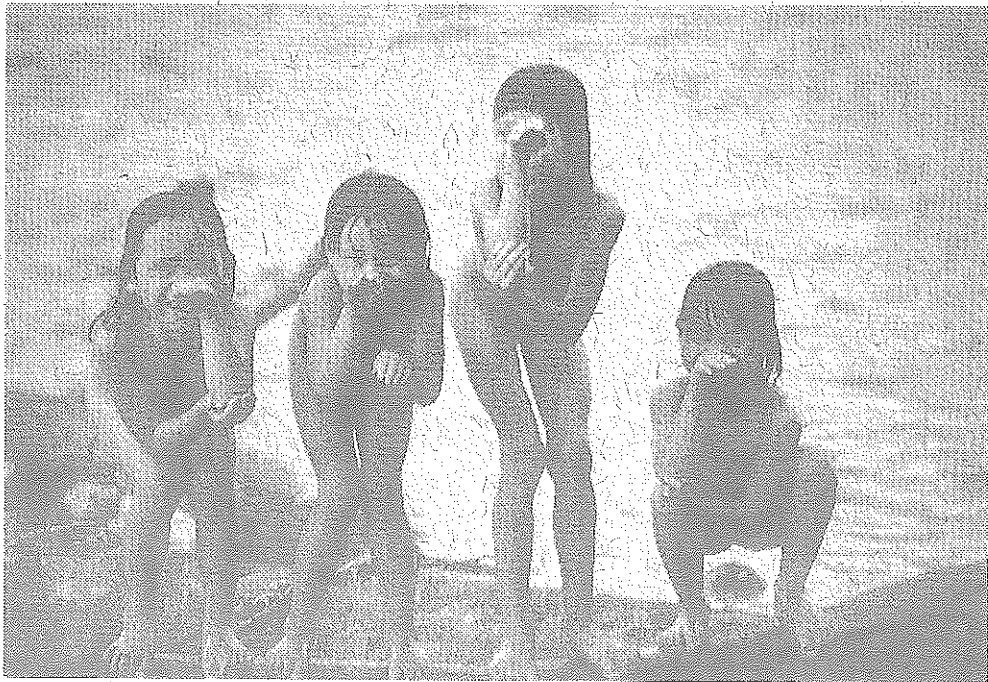
Save The Tropical Forests



森の通信

2001.10.2

- COP6・ボン会議報告 ..... 3
- コアラの森が消えていく(オーストラリア) ..... 5
- サラワク訪問記(前編) 峠隆一 ..... 8
- ブレークマンガールが殺された ..... 13
- 世界の森林問題ニュース ..... 14



【photo】 天使たちが川で遊んでいた。カメラを向けるとだれかれともなく自然とポーズをとってくれた。だが、この村もダム水没予定地となり、この子たちもどこかに行ってしまった。 峠 隆一(ルポライター)

## 【ウータン活動報告】 2001-6-23~9-16

- 2001-6-23 ラミン調査会打ち合わせ/奥村、柏木、井下ほか  
 6-24 エコ緑日に参加/西岡、井下、奥村  
 7-1 温暖化防止「京都議定書、日本がまず批准を」東京集会/参加\*西岡  
 ~議定書の批准を求める意見書採択は、地方議会で120を超える  
 7-2 「NGOのあり方を考える」第2回/発題\*西岡  
 7-7~8 「枝打旗」参加\*菅木  
 7-8 「京都議定書を救え！マラソンスピーチ」IN京都に参加\*西岡、井下、奥村  
 7-9 「議定書を救え！官邸前ACTION」に参加\*奥村  
 7-10 「通信ウータン60号」発送  
 7-14 ラミン調査会打ち合わせ/奥村、柏木、西岡、井下ほか  
 7-16~ ラミン調査会、英国NGO・EIAが依頼の「インドネシアの貴重樹種ラミン  
 をワシントン条約付属書Ⅱに登録する政策へ支持」賛同のお願い開始  
 7-19 気候ネット行動に答え大阪で「COP6で温暖化防止合意を」同時行動  
 主催/ENE関西、アースデイ大阪2001/参加\*西岡、奥村  
 7-20~22 COP6再開・閣僚会議でも川口環境相は温暖化防止合意を明言せず  
 7-22~ 西岡、COP6再開ボン会議へ  
 7-23 再開COP6、奇跡的な合意—2002年発効へ日本の批准が鍵  
 EU、途上国は日本らの提案森林吸収を大幅認める要協案をのみ合意  
 7-27 COP6閉会、各種問題をCOP7へ先送り  
 8-4 ラミン調査会、「ラミンをワシントン条約、へ支持」25団体賛同をEIAへ連絡  
 8-24 ウータン、JATAN6提案の「熱帯林保全に関する要望・アンケート」の賛同  
 8-25 ラミン調査会、「熱帯林保全に関する要望・アンケート」を共同提案へ  
 8-30 主催のENE関西の「COP6合意掃蕩報告会」に参加\*西岡、井下  
 9-9 気候ネットワーク運営委員会に参加\*西岡  
 9-16 ウータン主催、協力熱帯林きょうとの「オーストラリアの原生林を守れ」集会  
 開催~オーストラリアNGOとJATAN小浜氏講演

## 会計より○○○○

臨村はるえ

INFORMATION

【会費、カンパを頂いた方々】(2001年7月5日~2001年9月14日)

青木恵美子 阿蘇紀夫 伊東万千子 一鷹要市 祝美津子 上田広子 鶴川まき  
 大亦義朗 岡岳彦 岡本昭子(グループ地球人) 北山康子(国産材住宅推進協会)  
 倉友克美 小森富美枝 下山久美子 助友伸子 田中順子 田中洋一 田村義彦  
 千代延明憲 永田展雄 苗村真代 畑健次郎 深町加代子 福島在行 藤岡正雄  
 松本剛一 明周正和 山田光一 (敬称略)

〈お便りから〉 (敬称略)

★通信ありがとうございます。地道にとり組んでおられることがわかり、困難で希望  
 のないような状況の、現地の方々のくらしと森の文化の大切さを痛感します。活動  
 する人もお金もないグループですが、少しでも何かできることを考えていきたいで  
 す。(グループ地球人・岡本昭子)

★あつという間に時が流れていきます。時々のはんびり立ちどまらねばと思うので  
 す。(畑健次郎)

★祖先伝来の屋敷林を守るため、高額の固定資産にアップアップしていますが、ヒー  
 トアイランド化を防ぎ、都市空間に貴重な酸素を供給しているんだから、固定資産  
 税・都市計画税、もっとまけてくれいっ!! 屋敷林に減税を!! (松本剛一)

\* 本誌は再生紙を使用しています

【表紙】新草木染・ハーブ(64.5kg、古紙40%)

【中紙】バガス(55kg、非木材紙50%、古紙35%)

# COP6・ボン会議 奇跡的な合意成立

西岡良夫

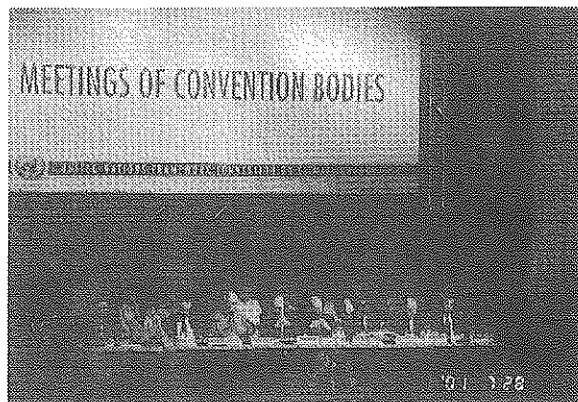
## 合意へプロンク議長の策略—ゴネる日本政府へ森林吸収を認める案提示

7月22日、娘の知恵とボンへと飛び立つ。チケットが取れず、これが最後の選択便だった。22日はCOP6が不成功のまま、閣僚会議が全て終わるかもしれないのだ。今回、日本の森林NGOの参加が少なく、前回の会議でも森林の吸収源問題が大きな議題となっていたから、どうしても参加せねばと意を決した。初めてのヨーロッパの会議。しかし前日21日、COP6のプロンク議長が、合意にゴネまくる日本政府の要求の森林吸収分3.7%全てを認める案を示し、私は新聞を見て機上で激怒していた。

3月下旬、米国大統領ブッシュが温暖化防止離脱宣言により、日本の小泉政権はボンでのCOP6再会合にむけ、米国を説得すると言いつづけた。COP6の前に開かれた7月20日から22日のジェノバサミットでも小泉首相は合意の意思を表明せず、もはやCOP6ボン会議自体が不成功に終わる可能性が極めて高かった。だが合意に向けプロンク議長はこの場に及んでも、CO<sub>2</sub>削減の目玉として科学的にいいかげんな森林吸収について全て認める案を提示した。これが合意の切り札だった。

閣僚会議の最終日7月22日に至っても、日本政府は最終合意案に受け入れる姿勢を示さず、COP6会議を混乱におとめていた。今日か明日にでも合意が無いと、COP3の京都議定書を葬り、温暖化防止の世界的取組みが一瞬にして消えてしまうのだ。

私らは、22日の夕方5時にCOP6会議場のマルティムホテル前にやっと着いたが、ジェノバサミットで死者を出したためか、その日警察は「IDカードが見当たらない」と会議の参加を拒否した。娘は疲れて、道路わきの草花をポーズと見ていた。



### 突然の奇跡的な、温暖化防止包括合意、沸き起こる拍手！

その頃から 22 日深夜にかけ EU、途上国、ブロンク議長はどうしても「ここで合意が必要」と必死の努力で、日本を巻き込もうとしていた。むろん気候ネット、CASAなどが川口環境相にアタックしていたのはいうまでも無い。川口環境相は、徹夜の包囲網にやっと意を決め、7月23日午前6時に日本政府として合意し、COP6は昼の12時に奇跡的に、世界の温暖化防止包括合意がなされた。会場は拍手の嵐だったらしい。

私らはCASAの早川さんや気候ネットの田浦事務局長と連絡が取れずやきもきしたが、夜半になって、にこやかした日本の仲間と再会できた。

早川さんによれば、川口環境相が何度も小泉首相と22日に連絡を取り、政府合意を決めたいらしい。日本は遵守問題、原発によるCO<sub>2</sub>削減を固執し、世界のNGOは「日本が京都議定書を殺した」という報告を出す直前だった。しかし、米国、豪州を除く各国は、抜本的な温暖化対策にならない原発利用を認めない案で日本を押し切った。

24日に全体会合が開かれるとの予定だったが、森林吸収問題などで「損をする」とロシアがゴネだし、森林吸収問題は26日も非公式会合となり、各種会合が非公式となった。日本のNGOは粘り強く働きかけ、26日午後4時に気候変動枠組条約事務局長クタヤールさんと日本のNGOが会うことが出来た。娘の知恵もクタヤール事務局長に、ブロンク議長の似顔絵を渡し、気候ネットからは日本から持参したみんなの「一声メッセージ」を手渡した。

### 批准へのうねりと吸収源問題を

日程の関係で吸収源問題、京都メカニズムなどの具体的ルールは、次回会議モロッコで開かれる10月29日～11月9日にまわされた。日本らは抜け穴拡大をまだ意図している。

8月30日、大阪での帰国報告会で講演のCASA早川さんは「今後、NGOら国民の働きかけで、日本政府が温暖化防止の条約に批准するというようにしなければならない。見通しは明るくなったが、政府がはっきり批准を表明し、産業界に大幅な削減をさせるようにしなければならない。まだまだ道は険しい。」と述べた。

CO<sub>2</sub>吸収源に関しては、「植林」、「再植林」以外に「下刈りなどの森林管理」や「農地・牧草地の管理」「植生の回復」の4種類が認められる、というとんでもないものだ。それも各国事情に合わせ削減分に算入できる上限が認められた。日本政府は「わが国の上限値年1300万トン炭素トン、3.8%まで算入」と評価した。包括合意での吸収分は、「日本の削減目標6%のうちシンクで上限枠を合わせ4.9%をかせげる」ことになる。企業のCO<sub>2</sub>削減の努力を放棄させることにもつながりかねない。そのため、途上国への「単一植林反対キャンペーン」「プランテーション反対キャンペーン」などが必要となるだろう。

# 日本の紙需要により、失われるオーストラリアの原生林

## コアラの森が消えていく!

あなたはこのままでよいと思いますか？



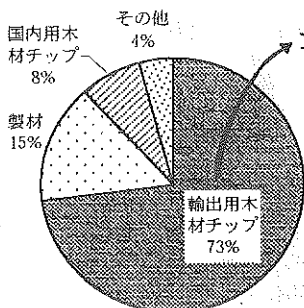
コアラなどの様々な動物が生息する樹齢数百年にもなる森林が破壊され 紙の原料として日本に輸入されている!

● 9月16日、大阪に オーストラリアから 2人のゲストを招き スライドを交え 現在の森林破壊の様子が報告されました。スライドの写真は「オールドグロス」と呼ばれる原生林の自然のすばらしさと、日本に輸出される4-アップ(紙の原料) パルプ材(チップ)の輸入先による破壊的伐採をうし出していました。

オーストラリアの森林は国土の5%を占めるにすぎませんが多様な動植物が生息しています。ユーカリには数百もの種類があり

### 【日本側】

天然林木の用途 (1999年度)

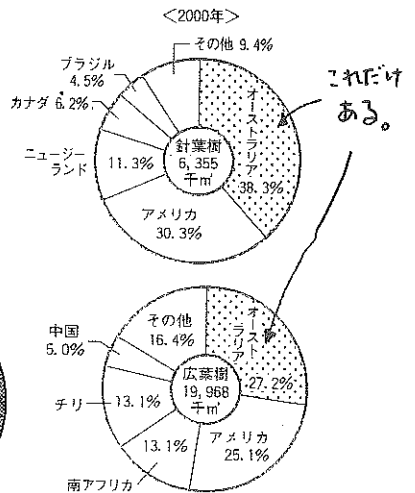
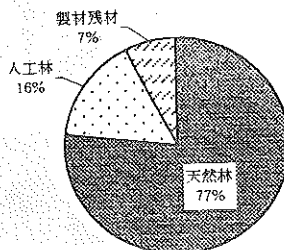


(96%日本向)  
このほとんどが日本へ来る。  
年間約600万トンもの量。

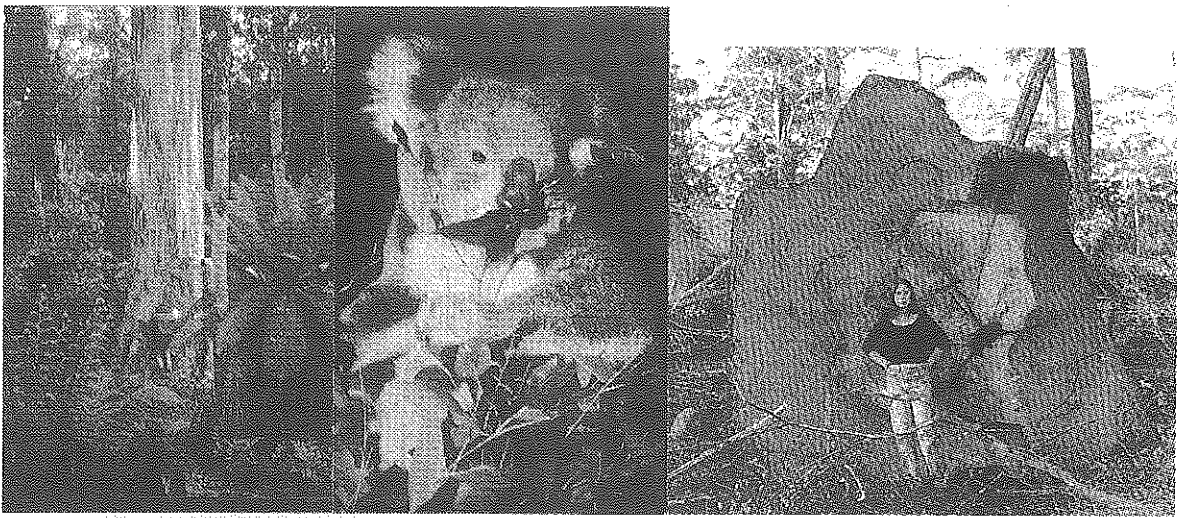


### 【オーストラリア側】

オーストラリア広葉樹木材チップの構成 (1998年)



資料：財務省通関統計



高いものは132mもあり世界一の顕花植物とされています。これらの森には コアラ、カンガルー、ワラビー、ネズミカンガルー、ポッサム、クワウモモンガなど オーストラリアにだけ生息するものが生存のために森を必要としています。オーストラリアの森林に対する最も大きな脅威は紙生産のために行なわれる木材4ツブ用伐採で、そのための100種以上の動物が絶滅の恐れにたたわれています。

オーストラリアの森林は製紙用原料のため30年前から伐採されています。

毎年20万ha(1日当りフットボール場2800分)の森林が伐採され、その面積は東京、大阪、京都、横浜などを合わせたぐらいの大きさになっています。4ツブ工場はオーストラリア

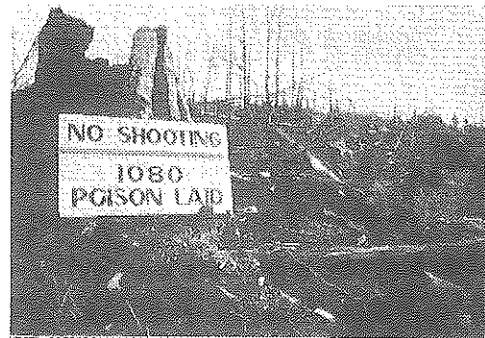
に10ヶ所あり、大昭和製紙、日本製紙、三菱製紙、王子製紙などほとんどの製紙会社がやらんでいます。

イーデンという町(シドニーから南へ500km)にある大昭和製紙の4ツブ工場は、国有林をかりつくし、私有地をささげているらしい。これらの会社企業はオーストラリアの2大政党に多額の政治献金を行なっている。そのため地域森林品定(R.F.A)という法律があるが全く、環境を保護する法律も見直しされない状況もある。

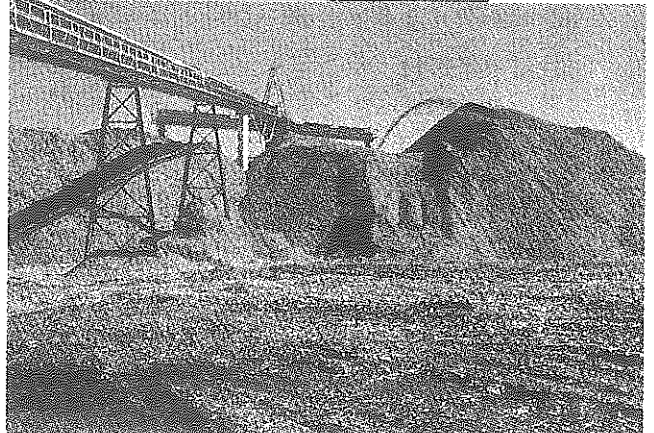
これら法律を期待するよりもやはり、日本側で破壊された森林の材を買わない、使わない運動が必要でしょう！ これら企業に1人1人の声をとどけよう！(次ページに...)

▼ 伐採跡地には空中から100m弾に似たものを投下し火を放つ、「再生焼き」と呼ぶ。

その後「1080」という毒物が注入されたコングンがまかれ、ワラビーなどの動物が植木の芽を食べないようにしている。全ての動物が死滅する。



加工された4ツブは船積み  
 まで山積みされます。  
 75メートルの高さにも...



● 私たちにできることをやろう!

日本の私たちが紙を大量に使うことにより、オーストラリアの森林が消滅しています。今やたくさんの問題が出てきて1人の力ではどうもできないと思ってしまうがちです。しかし、それは又1人の力では大きく流れを変えることもあることです。やれることもあるはずですよ。

行動① 日本の製紙会社に手紙を書く。

② 他人に情報を知らせる。

ホームページ「紙と森林伐採を考えるページ」

<http://www.jca.apc.org/jatan/woodchip-j/>

そして、あたりまえのことですが、必要のない紙は極力使わない、使うなら再生紙、非木材紙、使ったら再生にまわす。という普段の行動が大切です。

オーストラリアの環境保護団体のメンバーが来日し、コアラのすむユーカリの原生林の伐採を中止するよう経済産省をはじめ関係省庁などに要望した。同団体によると、同国の森林は30年間にわたり毎年約20万ヘクタールが伐採され、うち7割が原生林。「ほとんどが製紙用の木材チップとして日本に輸出されている」という。

来日したハリアット・スウィフトさんとティム・キヤドマンさんは環境

## 豪のユーカリ原生林

# コアラの森守れ!!

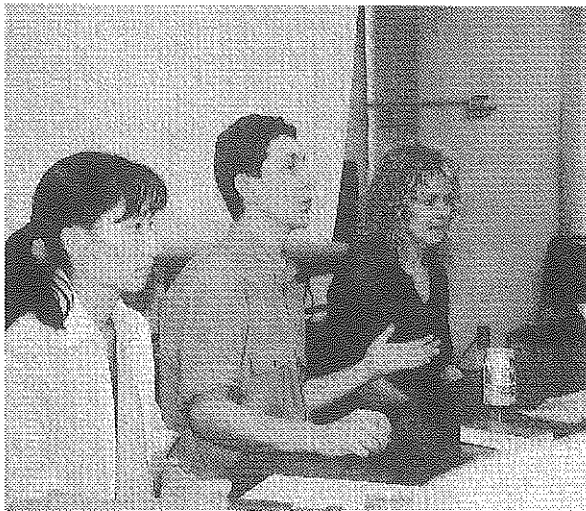
地元保護団体 経産省などに訴え

省で会見。スウィフトさんは「原生林の大半には空洞があり、コアラなど小動物のねぐらになる。オーストラリアではユーカリの植林が盛んに行われており、製紙用の資源は植林木で十分確保できる。原生林を伐採する必要があるは全くない」と訴え、キヤドマンさんは「原生林は皆伐後に燃やす。その際に二酸化炭素が発生する。その後、植林した若木を小動物に食べられないように毒物を散布するため、ワラビーなどが

年間約50万頭も死んでいる」と現状を説明した。一方、日本の環境NGO（非政府組織）「熱帯林行動ネットワーク」はこのほど、出版社など紙を利用している国内の主要企業7社にオーストラリアの原生林伐採問題についてアンケートした。このうち5社が回答し、約半数が「原生林の伐採を認識していなかった」と答えている。5社は「今後、原生林からできた紙の使用を中止する」と答えた。

【吉川学】

(9/24 18日)



### 講演者紹介

#### ハリアット・スウィフト

オーストラリア南東部において、木材チップのための伐採に反対するキャンペーンを行う団体「CHIPSTOP」の共同創設者・コーディネーター。彼女の居住地は、大昭和製紙が海外で最初に操業を始め、オーストラリアでも初めての木材チップ工場が建設されたイーデンの地域にある。職業は作家・ジャーナリストで、オーストラリア政府の上級顧問を務めたこともあるが、現在はほとんどの時間を森林とそれに依存して生活する動物のために働いている。オーストラリア国立大学を第一等学位で卒業。

#### ティム・キヤドマン

国際的なNGOである「Native Forest Network」の創設メンバーで、ニューサウスウェールズ州を本拠地とするコロ原生自然財団理事、テラ自然財団顧問評議会委員、森林管理協議会(FSC)メンバーをも務める。これまでの実績として、WWFとグリーンピースが委託したレポート「京都議定書がいかに森林破壊をもたらすか—明確なケース」や、森林に関する政府間パネルの行動提言に関するモニタリング報告書などがある。ガートン大学の修士課程を修了後、キャンベラ大学の応用科学科博士課程を就学中。持続可能な森林経営と認証・ラベリングを専門とする。

▲右からハリアット・スウィフトさん、ティム・キヤドマンさん、3画記のハネ下さん。9/16

◆ 峯 隆 - (ルポライター) の

# サラワク 訪問記 [前編]

今年の春、2年ぶりにマレーシアのボルネオ島サラワク州を訪れ、約1ヶ月各地を歩き回った。

思えば10年前、サラワクはテレビ・新聞・雑誌とメディアを問わず、その過剰なまでの熱帯林伐採が毎日のように報道されていた。だが報道のない今、伐採は終わったのだろうか？ 答えはNOである。依然、サラワクでは過剰伐採が行われており、なおかつ、伐採後に「用済み」となった森を大規模な油ヤシプランテーションに転換する「開発」が目白押しに行われ、近年では、アカシアやユーカリなどパルプ用の早成樹のプランテーション開発も大きな社会問題を巻き起こしている。先住民の逮捕、裁判、殺人、強制移住…。マスコミ報道がサラワクを忘れた今、その状況は悪化の一途をたどっている。

今回、垣間見たその一部をお伝えしたい。

## 1. バクンダム

### (1) 定住地

近い将来、完成すれば東南アジア最大のダムができるかもしれない。

その予定地、バクン地区への移動は実に楽だった。エアコンの効いた車で、サラワクの海岸線の中中部にあるピンツルー市からわずかに3時間。すれ違う車はほとんどない。わずか2年前はガタガタ道だった場所は今、全面舗装へと変わった。少し前まで、サラ

ワクではどこの村に行くにも、移動は大河を走るフェリーと先住民のボートの組み合わせだったのに、今は伐採用道路が発達したおかげで車で移動できるのだ。

話はまず、90年11月から。そのとき私は、サラワク最長のラジャン川最上流部の村、ケニヤ人のロングガンに滞在していた。バクンダムは80年代に計画されていたが、この村こそ、80年代末にダム計画を一時期中止に追い込んだ村である。村長を初めとした10人の長老たちが近くの村々を回り、ダムへの反対署名を集め、ダム反対キャンペーンを繰り広げたのだ。

このあたりの村長の言葉が、「サラワクの先住民」(法政大学出版局)の252ページにも記載されている(ただし、本では、ロングガンがロングゲンと紹介されている)——「われわれは土地を破壊して欲しくない。金は自分たちにとっては全く意味がない」

ところがその後、賄賂と引き換えに、10人の長老は、簡単に村周辺での商業伐採を許可するのである。私の滞在中、村人の中に憤激やるかたない思いが広がっていた。

そして、「俺たちはもはやこんな長老連中はいらん!」と、伐採反対派住民が住民集会を開催し、それまでの世襲とは異なる、民主的選挙による方法で長老を選んだのだ。今でも、このときの集会の住民の熱い言葉、熱気を思い返すと鳥肌が立つ。

果たして、伐採反対派の道路封鎖などの運動で、ロングガンはサラワクでは数少ない伐採を中止させた村となった。だが、92



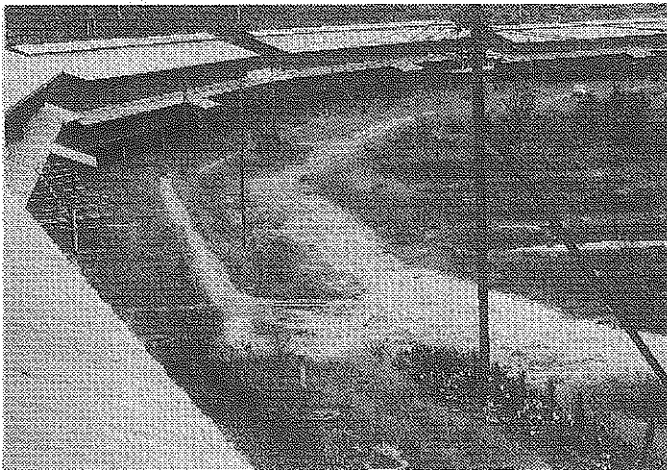
年、バクンダム計画が再浮上すると村は再び揺れた。

まず、ダムに沈む数十もの村々から大きな反対運動が起こらず、計画が政府に承認されてしまったこと。よって、水没予定地の村は政府が用意する定住地への集団移住を強いられたのだ。移住は98年11月から始まった。

そして今年の春。私はその定住地——スンガイ・アサブ——へと向かっていた。快適だった舗装路を左に折れると、そこからは、車が通るたびに白い土ぼこりがもうもうと立ち込め、歩く人々は口をタオルで覆う。

スンガイ・アサブには、水没予定の15くらいの村々が集団移住していた。ロングガンの人が住むロングハウスは、ロング・コヤンと呼ばれている。

さて、村人は今何を思いどう暮らしているのか、90年のロングガンを訪れている私には、それが一番の関心ごとだった。



政府が作った再定住地にはコピーのように同じ色・形・大きさのロングハウスが並んでいる

ビンツルーから車を運転してくれたジョンの家に入ると、大きさは元の村のとそう変わらないが、その「中味」に私は驚いた。水道と電気が引かれている。ロングガンでは見たこともない、冷蔵庫、プロパンガスの台所、洗濯機、(電波が入らないのに)テレビ、炊飯器と家電がそろっている。そもそも、ジョンが私を運んだ4WDの車だって、日本円で300~400万円はする代物だ。これはジョンの家に留まらない。ここに移住した家族は、車までは行かなくとも、それまで使っていたボートの代わりにバイクは持っている。

村人は、元の村で所有していた共有財産(土地、果樹など)と私有財産(土地、木、家など)を捨てて移住する見返りとして、莫大な補償金を手に入れたのである。

「まあ、だから俺も車を買えたんだけどね」とジョンは当たり前のように言う。

——でも、こんな高い車を何のために？

「これを使って、交通の不便なここと町を行き来する移送業務をしているんだ」

——他の人は？

「それが問題だ。俺は金をどう貯めてどう使うかを知っている。でも、ほとんどの人は、もらったただ使うだけ。移住から1年半、もうすっからかんの奴もいるよ」

——金を使うのは当然のように思うけど。

「違う。ここのロングハウスはただじゃないんだ。5万1千リンギ(約160万円)だぜえ。5年間の据え置き期間の後、つまり

2003 年から分割払いを始める。俺は、そのときに払える奴がどれだけいるか疑問に思う」

サラワクでは都市部でも、集合住宅型のマイハウスが 6~8 万リンギ (約 190~260 万円) はするが、この僻地で、木造の長屋で 5 万リンギは正直高い。

ジョンが、晩に、15 のロングハウスをざっと回ろうとドライブに連れて行ってくれた。それは実に味気のないドライブだった。どこのコミュニティのロングハウスも、同じ色、同じ形、同じ大きさ…。特にびっくりしたのが、サラワクで最も素朴に暮らしているブナン人のロングハウスで、その村長が 2 台の 4WD の車を洗車していて、彼の家にはパラボラアンテナが備え付けてある光景を見たときだ。私もジョンと同じ思いをもった。——「2003 年から彼は家のローンを払えるのだろうか？」

確認したかったことはもう一つあった。

サラワクの先住民は、一家族が何十 ha もの土地のなかで、10 年から 20 年くらいの周期で移動循環をする焼き畑農業を行っていることである。だが、ここではわずかに土地 3 エーカー (1.2ha) を与えられたに過ぎない。即ち、焼畑は無理。土地をどう使っているのか？ これもジョンとのドライブでだいたいわかってきた。あちこちの土地から目に飛び込んでくるコショー畑の数々。

「コショーは換金作物だからね。それで生計を立てようとしている人は多いよ」パイナップルを植えている人もいる。

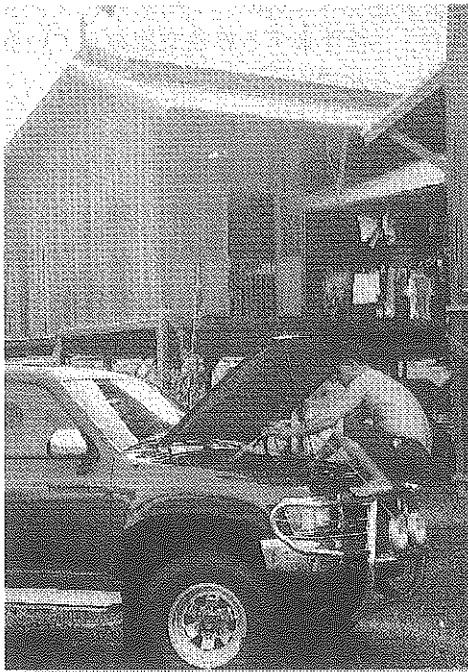
——で、いい収入はあるの？

「だめだね。イバン人はコショー作りをもう何十年もやっているから技術があるけど、俺らケニヤや他のカヤンもブナンもただ見よう見まねでやっているから…」

サラワクの焼畑では陸稲を育てるのだが、ここでは作っていないのだろうか？

ジョンの家の隣の夫人に尋ねてみた。

「98 年 11 月にここに来たから、99 年夏に種をまいて、最初の収穫は去年の 1 月から 3 月でした。そのときは豊作でした。でも、3 エーカーだけではまた同じ土地を使うしかないんです。だから、同じ土地でまたお米を育てました。その収穫が今年の 1 月からです。結果は例年の半分くらいでしょうか」  
——今年もお米 (初) を撒くのですか？



◀ 定住地では、  
補償金を貯めろに  
ただ使う人もいる。  
この車の持ち主は  
4WDをもう一台と  
衛星放送を受信する  
TVを所有していた。

「わかりません」

移住地では、実に 10 年ぶりに出会った知人たちがいる。10 年前独身だった彼らも、今は子どもが 2、3 人はいる父親となっていた。

——どう生活は？

ムサはただ首を横に振った。マルコスは、しばらく考えてから言った。

「まだ…わからない。2 年半しかたっていないから。もう少し住んでみてから結論を出したいんだ」

そういう彼らは今どうやって生計を立てているのか？ 補償金をまだ貯蓄している者もいるが、後日、私はトヨタ・ランドクルーザーの荷台に乗ったマルコスやムサたち 10 人以上の男が奥地へと行くのに遭遇している。みな、片道 5 時間はかかる、昔いた村へと向かっていた。帰るのではない。人がいなくなった今、数が増えてきた魚や猪を捕りに行くのだ。それをスンガイ・アサブのなかで売る。

だが、そんな収入活動もダムで村が沈んだら終わりになる。農業として、とうてい自立し得ない 3 エーカーだけの土地、そして、再来年から始まる家のローンの支払い。その頃、補償金をとっくに使い果たしている人は相当数いるのではないだろうか。ジョンは次のように予想する。

「俺の予想では、6 割以上の人はローンを払えないと思うよ。その人たちは、町に行って仕事を探るか、自分たちで新しい村を作るかのどちらかだと思う」

気になる新聞記事を見た。スンガイ・アサブでは一家族 3 エーカーしか土地を与えられていないのに、その周辺で数千ヘクター

ルもの広大な油ヤシプランテーションが計画されているのだ。なぜ、それだけ広大な土地を移住者に分け与えることができないのか？ いや、なぜプランテーションがわざわざ移住地の周囲にあるのか？ 生計が立ち行かなくなる人たち、そしてプランテーション。この二つは将来どこかでつながるのだろうか？ 単なる私の杞憂だろうか？ そんな漠然たる疑問の答は、否が応でも数年後にわかるだろう。

## (2) ロング・ラウン

さて、ロングガンから、定住地に移住しなかった人々がいる。90 年の住民選挙を総指揮したガラ＝ジャロン(自称 40 代)が率いる人たちだ。

ガラは豪放快活。伐採と闘い、逮捕されること実に 4 回。それでもいつもガハハと笑い、村人とともに歩いている。

ガラは、たった 3 エーカーしか与えられない土地、5 万 1 千リングものローンを抱えることに疑問を感じ、何よりも、コミュニティーは自分たちで作るべきとの思想から定住地への移住を拒否。ロングガンの約 200 家族のうち、当初 30 家族がガラに賛同し、ロングガンから離れてはいるが、水には沈まない先祖伝来の土地タコラン地区にロングラウンという村を作った(私は、ここは 2 年前にも訪れている)。ただしその場合、政府からは、共有財産への補償金は支払われても私有財産へは支払われないという、定住地組とは明らかに違う差別を受けた。だが「金ではない」とガラは言い切る。

そして今、ここには 65 家族が住む。増えた分は、定住地から改めて移り住んだ人だ。

——なぜここに移り住む人が増えたのか？

「やはり向こうでは、農業も狩もできないからだと思う」

——しかし、2年前、定住地に行った人を嫌っている住民もここにはいたが。

「今、そういう感情はない。向こうは向こうで大変だったから。向こうにはまず小学校がある、病院がある。ここにはないんだ。だから、苦渋の選択もあったんだ」

ロング・ラウンには小学校がない。正確には、政府が設置しようとしない。クリニックもないが、政府との交渉の結果、月に一度、ヘリコプターでのフライングドクターが来るという。そして、アメリカのボルネオ・プロジェクトという NGO が近くの山の沢水を引いての水道を敷設し、この原稿を書いている今、水落を利用した小型発電機を設置しているはずだ(住民もそれなりの負担をする)。定住地に頼らずとも、わずか2年半でここまで村を作り上げてきた。

——では学校ができれば…。

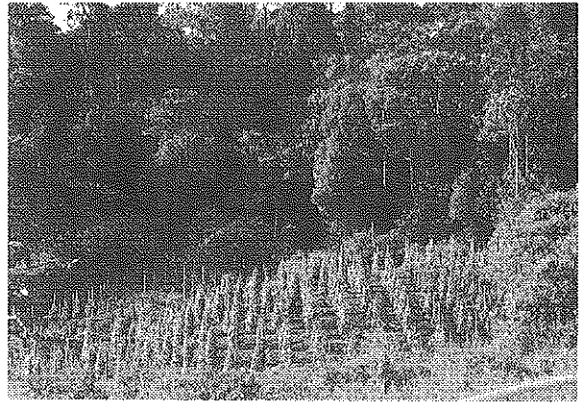
「それも交渉中だが難しい。とにかく、それで定住地へと住民が行かざるを得ないシステムが許せない。この村でも、子どものいる奴は、向こうに住む老夫婦の家に子どもを住ませ、学校に通わせている」

定住地からロングラウンに移り住んだ人々は全て、99年、即ち移住の翌年に、早くも定住地での生活に見切りをつけてやってきた人々だ。だが、2000年、そういう人々はいなくなった。地区行政官がそれを許可しなくなったからだ。あまりにも定住地から人が流れると、それは即ち政府の計画の失敗をさらすようなものだからだ。

あのロングガンでの日々。伐採を支持する村長一派以外の住民は、本当にガラを信頼していた。その人たちの多くは決して、補償金目当てで定住地に移住したのではない。それまで支えあってきた地域が裂かれ

「コショウ畑」

「焼畑が無理な定住地では、多くの人々が換金作物であるコショウやパンを植えている。だが、いい収入をあげる人はごくわずかである。」

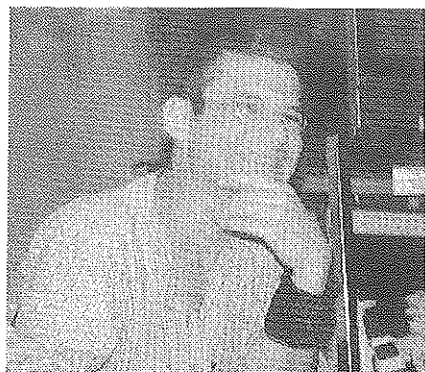


たことがどれほど悲しいことか、私たちは想像もできない。2年前、ロング・ラウンで出会った知人は、村人が故郷を離れた日のことを今でも鮮烈に覚えている。

「98年11月、ロングガンから初めて人が定住地に移住を始めた日、僕は泣いたよ。僕たちは一つにまとまっていたんだ。何で離れ離れにならなきゃならないんだ。悲しくって泣いたよ。僕の5歳の娘も大声で泣いたよ」

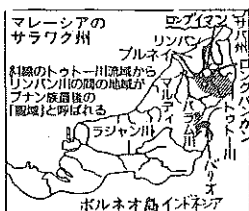
定住地、ロング・コヤンでの夜。民族ギター、サペの名手のおじさんが何曲かをロングハウスの廊下で演奏してくれた。サペはいつ聞いても心にしみる。その音色にしみじみと聞き入る人たち。傍らには、せつせと簾細工を作っている婦人もいる。その穏やかな日常の一部はロングガンにいた頃とまったく変わらないが、将来、ごく近い将来、定住地とはいえ、その穏やかな付き合いですら失われてしまうという、漠然とした予感や不安は地域に漂っている。権力に翻弄される人々と抵抗する人々。その二つの行く先をもうしばらく見つめていきたい。

(後編へ続く) ■



## 先住民プナン人と暮らした

# ブルーノ・マンサー氏が サラワクで殺された・・・



今年6月14日、私たちウータンでサラワク先住民プナン人と6年間原生林で暮らしたブルーノ・マンサーさんの追悼集会を開いた。

彼はサラワクの森で、暮らしていたが、先住民を道路封鎖にそそのかしたとして、軍、警察が彼の行方を、必死になって探した。彼は身の危険を感じ、サラワクから出た。

そして、日本に立ち寄る際に来阪してもらった。1度だが、サラワクの報告集会をブルーノさんに語ってもらった。

「森林破壊がひどく、プナン人の生活域は悪化の一途だ。サラワクで彼らと共に暮らしたことは、私にはかけがえの無いことだった。

だが、彼らは危険にさらされている。狩猟していた森が、ブルドーザーで突然薙ぎ倒されていた。彼らの墓の周りも知らないうちに切られて、森は次々と壊され、生き物たちが泣いている。

これ以上の破壊に耐えられない。多くの森と彼らの危機は、私の危機でもある。今からでも遅くない。サラワクの森を一緒に守ろう」と。

それから約10年経った。その間にサラワクの森は、華僑系の木材会社により、サラワク州政府の手により、次々と破壊された。もう奥地の森しか原生林は残されていないのだ。

ブルーノさんはサラワク州から追われて、世界の各地でマレーシアの森林破壊を訴え続けた。世界一の木材輸入国日本に対して、「これ以上輸入を止めて」とやってきて、商社へJATAN、SCCと一緒に申し入れたりした。サラワクの森を知り尽くし、愛しく思う彼は、熱帯林保護の活動家となっていた。故郷スイスにブルーノ・マンサーFUNDが、先住民の権利や生活向上、森林破壊に抗するため、設立されている。

しかし、彼は昨年の5月24日よりサラワクで消息を絶った。Missing!—国境の村バリオで。

2001年1月4日、突然の電話が鳴る、誰だ。街に住むプナン人へ、急な知らせだ。「私もつき添っていいか」と彼に聞く。

屋台で待つ。私は見張り番を兼ねるような形で、食事をして。何事か詳しいことを喋っている。やってきた彼は、ブルーノ・マンサーFUNDのメンバーだった。インドネシアから来て、彼はこの2ヶ月、ブルーノが今まで訪れた村や友好関係のある先住民と話を聞いたと。

「見つからない。多くの先住民の仲間も探してくれたんだが、ブルーノはやはり殺された。」

短い時間だったが、少し緊張したためか、長い時間が過ぎ去っていくようだった。やはり、バリオ村から山手のほうで、消息を絶っていた。

プナン人は「仕方ない。私たちの仲間も探したが、見つからなかった。彼と話したんだが、3月20日頃にサラワクの原生林の村で、ブルーノ追悼集会をしようと思うのだ・・・」

サラワク州の奥地の村で、各地から訪れた先住民の仲間が、200名以上が、ブルーノさんの追悼集会に集まった。山を越え、川を渡って。

ブルーノ・マンサー—98年サラワク州首相のタイプ邸にもパラシュートで降り、熱帯林保護をもう一度世界的にアピールしようと思った好漢。失敗に終わったが、これがサラワク州に命を狙われることになったのだ。

すでに彼はサラワクに暮らしていた時、警察に「先住民をそそのかしたのか」と聞かれ、「取り調べる」と連行された。ブルーノさんは上手く森に逃げたが、銃で撃たれた。危なかった。

彼は「吹き矢とブルドーザー」というTV番組で、「私はプナン人や森を守る活動をすれば、サラワクで殺されるかもしれない」と予言していた。それが本当に、悲劇となったのだ。今も警察は、「私たちは知らない」というのだ。

# 世界の森林問題ニュース 2001年6月~8月

●COP6合意、排出量削減で森林吸収源4.9%も〜  
7月16〜27日、ボンでCOP6再会合が開催された。同会議は、1)吸収源問題、2)遵守問題、3)京都メカニズム問題、4)途上国問題が協議され、とりあえず包括合意した。

そのうちで森林関係の吸収源については、①議定書3条4項については第1約束期間(2008〜2012年)では森林経営、農地管理、牧草地管理、および植生回復について削減目標から差し引ける。(各国が選択可能)。②算入できる吸収源について上限を国別に設定。日本はこねて、この上限値が炭素換算1300万トンで、90(基準年)年排出量の3.9%に相当。吸収分3.9%で森林減少分0.2%を引くと、日本政府要求の3.7%となる。

③クリーン開発メカニズム(CDM)の吸収源は、新規植林及び再植林に限定し、基準年排出量の1%。森林吸収分は削減目標6%のうち61.7%に相当するのだ。また先進締約国全体で、2%の削減目標は、3.3%を吸収源で達成でき、遵守も当初案より緩められ、京都議定書の効果は半減した。

現在、Co2排出量の約7割が産業界からである。しかし、日本の6%削減量の残りの対策は、工業・運輸・民生部門で何と0.5%削減のみ。その残りは、京都メカニズム(排出量取引、他国での温暖化防止事業をして自国の削減量に利用できる)によるものが1.8%。国内でほとんど削減しないのだ。つまり合意したが問題も多く、次回COP7も大切だ。

●リンパン・ヒジャウ(RH)ロシアもFSC取得へ〜

サラワク州奥まで伐採し、アマゾン、ガイアナ、パプア・ニューギニア等で破壊を続けるマレーシアの多国籍企業リンパン・ヒジャウ社(本社サラワク州シブ市)は、極東ロシアのシホテ・アリニ山脈等に伐採権を得て、カラマツを中心に丸太輸出を本格化しようとしている。RH社はFSC(森林管理協議会)の認証取得を検討と。輸入窓口となる住友林業は、「ロシアの森は魅力的で、天然更新しやすい方法の導入や伐採後の植林を検討する」と。RH社は、原生林破壊の後、植林をしたという報告が無い。ただ同然で得た伐採権で、ロシアで植林をする? (林研新報 6/21/01)

●8月6日からラミン材、取引を規制へ〜

ラミン調査会の報告にもあるように、インドネシア政府はワシントン条約(絶滅の恐れのある野生動物の種の国際取引に関する条約)付属書Ⅲに登録したことで、インドネシアのラミン材には輸出許可書を付すことになった。輸入側も同許可書を事前提出が必要。インドネシア以外の国からは輸出される場合、原産地証明が必要となった。

●違法伐採第1回会合ーロシア、インドネシア材〜

昨年の沖縄サミットなどを受け、自民党は「違法伐採対策チーム」(座長松岡利勝・前副農相)を設置し、6月20日に会合を開いた。また、林野庁が13年度予算化し、全木連が「G8森林違法伐採対策事業」を実施。現状把握・問題点の解明・関係者との意見交換・消費者へPR等が予定され、地球の友・代表者の岡崎時春氏も入り、7月に会合。今後4回ほど予定。ロシア、インドネシアを中心に現地調査等実施と。来年二月頃、国際シンポをし、違法伐採を減らすのかを検討する。

(林研新報 6/21/01)

●2001年熱帯材輸入予測ー220万m3まで減少へ〜

2000年の熱帯材輸入は約309万m3で、北洋材は577万m3(前年比3.5%増)、米材は386万m3であった。6月末、日本木材輸入協会が平成13年予想をまとめた。それによると、南洋材丸太は前年より80万m3減少で220万m3。これは1973年の輸入ピーク時の1ヶ月にも満たない量だ。乱伐、違法伐採、大農園開発への伐採などがこのようにした。今こそ違法伐採等を止めさせねばならない!!

(林研新報 6/21/01)

南洋材原木輸入量 単位:1000m<sup>3</sup>

年代	年	輸入量	累計値	年代10年平均値
1950	1950~59	14,565	14,565	1456.5
60	60~69	86,665	101,230	8666.5
70	70~79	217,550	318,870	21755.0
80	80~89	126,869	445,739	12686.9
90	90~99	68,956	514,595	6895.6

森林面積の変化

(アジア地域のみ国別掲載)

国名	全森林面積 1990年 1000ha	全森林面積 1995年 1000ha	変 化 1990-95年 1000ha	年 変 化 (面積) 1000ha	年 変 化 (率) %
アジア					
パングラチシュ	1,054	1,010	-44	-9	-0.8
ブータン	2,803	2,756	-47	-9	-0.3
インド	64,969	65,005	36	7	n.s.
ネパール	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
モルディブ	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
ミャンマー	5,096	4,822	-274	-55	-1.1
パキスタン	2,023	1,748	-275	-55	-2.9
スリランカ	1,897	1,796	-101	-20	-1.1
南アジア	77,842	77,137	-705	-141	-0.2
カンボジア	10,649	9,830	-819	-164	-1.6
ラオス	13,177	12,435	-742	-148	-1.2
ミャンマー	29,088	27,151	-1,937	-387	-1.4
タイ	13,277	11,630	-1,647	-329	-2.6
ベトナム	9,793	9,117	-676	-135	-1.4
大陸部東南アジア	75,984	70,163	-5,821	-1,164	-1.6
ブルネイ	448	434	-14	-3	-0.6
インドネシア	115,213	109,791	-5,422	-1,084	-1.0
マレーシア	17,472	15,471	-2,001	-400	-2.4
フィリピン	8,078	6,766	-1,312	-262	-3.5
シンガポール	4	4	0	0	0.0
島嶼部東南アジア	141,215	132,466	-8,749	-1,750	-1.3
熱帯アジア	295,041	279,766	-15,275	-3,056	-1.1
中国	133,756	133,323	-433	-87	-0.1
香港	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
日本	25,212	25,146	-66	-13	-0.1
大韓民国	6,170	6,170	0	0	0.0
北朝鮮	7,691	7,626	-65	-13	-0.2
マカオ	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
モンゴル	9,406	9,406	0	0	0.0
東アジア	182,235	181,671	-564	-113	-0.1
東南アジア	195,771	194,406	-1,365	-273	-0.1
アジア計	490,812	474,172	-16,640	-3,328	-0.7
オセアニア計	91,149	90,695	-454	-91	-0.1
アフリカ計	538,978	520,237	-18,741	-3,748	-0.7
ヨーロッパ計	144,044	145,988	1,944	389	0.3
旧ソ連計	813,381	816,167	2,786	557	0.1
北・中央アメリカ計	537,898	536,529	-1,369	-274	-0.1
南アメリカ計	894,466	870,594	-23,872	-4,774	-0.5
総合計	3,510,728	3,454,382	-56,346	-11,269	-0.3

注:数値は四捨五入のため一致しない場合がある。n.a.:数値が大変小さいことから重要でないの意。  
n.s.:データの入手ができないの意。n.p.:データの適用が困難との意。  
※南アジアに中東を含む。

世界森林白書(1997、FAO)

平成13年木材輸入予測

分野	丸太		製材		合板	
	数 (千m <sup>3</sup> )	前年比 (%)	数 (千m <sup>3</sup> )	前年比 (%)	数 (千m <sup>3</sup> )	前年比 (%)
北米材	5,706	103.5	610	112.8		
南米材	4,248	90.9	4,064	94.0		
洋材	2,208	102.0	898	92.3		
欧州材	1,799	103.0	247	102.1		
欧米材	59	134.1	2,352	102.1		
アフリカ材	10	76.9	458	98.3		
計	14,267	93.5	8,629	98.7	4,963	100.7

(林研新報 6/21/01)

# 「熱帯木材と私たちの暮らし」を 上映してみませんか？

環境教育部会では、熱帯林の商業伐採を考えるスライドを作成しました。枚数は50枚です。20分ほどで上映できますので、学校の授業では、解説やワークショップ等、使用者のアレンジで色々と工夫していただけます。

内容は、第一部では、フタバガキの一種（高木）メランティが熱帯雨林の生命力あふれる姿を皆さんに紹介します。森の姿、森に棲む生物達、森に住む先住民達の暮らしが生き生きと映されています。第二部では、メランティがチェーンソーで伐採されて伐採道路へ引きずられ、川を引かれ、マレーシアの港から大阪の港まで運ばれてきて製品になり、ゴミに捨てられるまでを追います。第三部では、大量消費のあり方を変え、原生林からくる熱帯木材消費を控えようとする様々な人々の取り組みを紹介します。

若い人達は環境破壊を憂慮しています。身の回りの様々なリサイクルに心がけている人も多いと思います。私たちは、熱帯林の本来の美しさや多様性、また、環境破壊をなんとしても抑えたいと前向きに取り組んでおられる人たちの姿を提示しました。希望を持って解決策を創造していきたいものです。

朗読用の文章を、知的理解力等を考慮して、中高生・生涯教育用と小学生用とに分けて作りました。観賞者と親密であれば、自分流にアレンジして大阪弁で語ってみたり、観賞者へ問い掛けたりしながら上映するといいかもかもしれません。上映の際の工夫があれば、ぜひ、私どもにお知らせください。他の皆さんとシェアしていけるようにしたいと思います。

多くの方々のご利用をお待ちしています。お知り合いの方へもお知らせください。

## 使用される皆様へのお願い

使用期間は1週間で、使用料は1000円です。  
銀行振込料と送料も使用者の負担でお願いします。

### 姉妹編 「アブラヤシと私たちの暮らし」 36枚

マレーシア・サバ州での大規模アブラヤシ開発。  
化粧品や食品などの日本での消費を見直してみ  
ませんか。



▲ スライドの1部

## 申し込み先

奥村 知亜子 (環境教育部会・スライド作成担当)

大阪府堺市北長尾町3-4-13 〒591-8043

TEL 072-252-0505

mail fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

# HUTAN ACTION SCHEDULE

## ◆ 熱帯林破壊と今も闘う先住民族 ◆

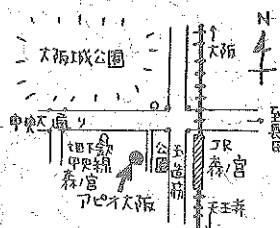
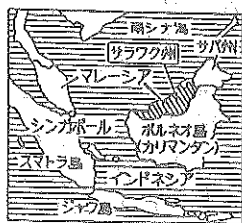
### サラワクから緊急来日！！

熱帯林破壊の問題は、近年、マスコミで取り上げられることもなく、すっかり忘れられてしまった感があります。しかし、日本の南洋材輸入による森林破壊は、終わったどころか、伐採は奥地化が進み、最後の残された原生林と人々の生活を蝕んでいます。さらに、巨大な油やしプランテーションやパルプ林の開発で、住民が先祖代々の土地から追われ、豊かな森が皆伐されて農薬付けの「緑の砂漠」に変えられようとしています。

90年代前半、サラワクの先住民族は何度も日本を訪れ、「熱帯木材の輸入をやめて！」と訴えましたが、サポートを取り上げた人もいて、国外に出るのが困難になりました。今回、7年ぶりに出国の目処がつき、来日が実現しました。この貴重な機会をお見逃しなく！

### 森の現状を訴える講演会

伐採と闘っているコミュニティー活動家、油やしプランテーション開発で被害を受けている村人、地元の環境保護団体の活動家など、先住民族3名がサラワクの現状を語ります（スライド上映、伝統楽器演奏、サラワクの民芸品販売あり）。



【日時】10月21日(日) 1:00pm ~

【場所】アピオ大阪 Tel.06-6941-6331

J・R 大阪環状線「森ノ宮」下車すぐ  
地下鉄：中央線「森ノ宮」2号出口右手後ろすぐ

【協力】サラワク・キャンペーン委員会 【問合せ】0722-52-0505(夜間)面商

## 『秋の「枝打ち族」』 PHD協会(奥村)大山振興会(主催) ウータン(協賛)

【日時】11月3日(祝)~4日(日) 【場】兵庫県・篠山市大山地区で枝打ち・間伐作業を行なう

※詳細は(奥村)PHD協会 伊藤さんまで Tel.078-351-4892



### ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308  
「関西市民連合」気付  
Tel.06-6372-1561

【一部】300円(年会費)3000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。